

北米の港湾における労働争議リスクの増大

各種報道のとおり、本年4月にカナダのモントリオール港で港湾労働者のストライキが発生しました。過去から北米では大規模な労働争議があり物流が混乱する事態も発生しております。本号では北米における労働争議の現状と、今後懸念される物流への影響についてお知らせします。

1. カナダ モントリオール港におけるストライキ

4月26日(月)に発生した港湾労働者によるストライキは、経済活動への影響を懸念した政府の介入によって5日間で終結しました。しかし、法律制定により強制的にストライキを終結させたもので、労使間の紛争を根本的に解決したものではないとの見方が広まっています。

今後、調停役が選任され労使交渉が継続されるものの、労働協約が2018年の期限切れ以降現在まで合意に至っておらず、2020年8月にもストライキが発生し1年以内に今回のストライキが発生していることから、今後も交渉の難航が予想されています。組合側も「今回の政府介入は公平な交渉の権利を脅かすものである」と反発を強めています。



モントリオール港でのストライキの様子

ロイター/アフロ

2. 米国東海岸の港湾における労働争議

チャールストン港、サバナ港、ウィルミントン港では、組合員と非組合員の両方が港湾業務に携わっており(hybrid system/hybrid labor model)、この処遇を巡る労働争議が激化しています。なお、米国東海岸およびメキシコ湾の労働組合(ILA)と使用者側(USMX)との労働協約は、2024年まで暫定合意されています。

2021年3月に、チャールストン港に新たにオープンした Hugh K. Leatherman ターミナルでの処遇を巡り、労働関係委員会(National Labor Relations Board)も入って協議が継続されているものの、組合側が使用者側および寄港した船会社に対し、訴訟提起する等の事態が発生しています。

3. 米国西海岸の港湾における労働争議

西海岸の港湾では、過去の労働協約更新の度に紛争が生じており、2002年や2014~2015年に大規模な労働争議があり物流が混乱しました。来年、2022年7月に迎える更新においても、特に、ターミナルの自動化を巡って労働争議が生じることが予想されています。

カリフォルニア州のニューサム知事は環境政策を強力に推し進めており、ロサンゼルス港およびロングビーチ港も2030年までの港湾荷役関連設備のゼロエミッション化を掲げて取り組んでいます。ターミナルの自動化もこのプロジェクトの一環ですが、西海岸の労働組合(ILWU)は、2020年7月に、この政策に反対する旨の書簡を知事宛に送付しています。

4. 物流に与える影響への懸念

それぞれの労働争議は別個のものですが、西海岸のILWUがモントリオールの労働者に結束・支援を呼びかける等の動きがあり、多少の影響はあるものとの見方が強くなっています。労働争議に起因するリスクがあることを念頭にして常に最新の動向を把握いただくとともにいざという時に備え、事前に代替ルートへの切替等を検討しておくことをお勧めいたします。



【出展】JOC.COM <https://www.joc.com> ILWU <https://www.ilwu.org> FREIGHT WAVES <https://www.freightwaves.com>

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。



マリントピックス
バックナンバー